全国
硫黄島
いおうとう
とうみんのかい
会報

通巻 第1号 2020年発行
発行 全国硫黄島島民の会
編集 島民三世の会
My Roots is Iwoto Islands.

二〇二〇年、最新の《硫黄島》をお届けします。

東京都小笠原村。第二次大戦の激戦地として知られるが、明治の入植から、昭和19年の強制疎開まで、恵まれた気候と島民の豊かな暮らしと文化があった。現在、小笠原諸島最大の面積を誇り、海上・航空自衛隊基地がある。民間人(旧島民含む)の入島は制限されている。

摺鉢山頂上から南海岸方向。海岸線（二つ根浜、翁浜）は隆起によって大きく変わった。奥に自衛隊基地が見える。2020年（令和2年）2月18日撮影。

日本軍の遺した砲台越しに摺鉢山を望む。2月でも島は緑に包まれている。2020年（令和2年）2月18日撮影。

《硫黄島》での暮らしや、出来事を次代に伝えたい

硫黄島島民三世の会 会長の西村です。

この会は二〇一八年に発足し、今まで主に全国硫黄島島民の会・総会での催し物の企画や、硫黄島に関する勉強会を明治学院大学の石原先生をはじめ、写真家の渡邉さん、新聞記者の皆様のご協力のもと開催してきました。

私の祖父母が硫黄島出身で、第二次大戦中の一九四四年の強制疎開で島を離れました。硫黄島は、明治の入植から短い期間に色々な事が起こり、今に至る世界でも類を見ない特殊な場所です。

そんな硫黄島で、祖父母や先人たちが営んでいた島での日常の暮らしや、島で起きた事について、島と一緒に生きた証として残しておきたいと考えています。

まだ微力ですが、三世メンバーと共に各分野のプロの方々のお知恵を拝借しながら、活動を進めていけたらと考えております。

全国硫黄島島民三世の会会長　西村怜馬

2016年、硫黄島墓参・父島にて

にしむら・りょうま

二〇一八年より
全国硫黄島島民三世の会会長。
一九八二年生まれ。
祖父・菊池耕一（島民一世）、
祖母・菊池康子（島民一世）の孫。
東京都出身・在住。

総会

年に一度の《硫黄島》同窓会

二〇一九年九月八日日曜日、第四八回となる『全国硫黄島島民の会(総会)』が、開催されました。三世の会は、写真展示、会場設営、受付等を担当。台風が近づく中、さまざまな催しで時間を忘れて盛り上がりました。

西村会長が育てた硫黄島産パイナップル

山下名誉会長、渡部アツ子さん　島民一世

川崎・日航ホテル

小笠原古謡の唄うたいOkeiさんと'南洋踊り'に挑戦

総会名物、戦前の硫黄島【立体地図】

勉強会

定期的に勉強会を開催しています

第1回・2019年 4月25日
第2回・2019年 7月22日
第3回・2019年11月23日
第4回・2019年12月23日
第5回・2020年 8月10日
(リモート会議)

二〇一八年に三世の会が始動して以来、当会の後見人的存在として指針を与えてくださる明治学院大学教授・石原俊先生と、当会会長・西村により、二〇一九年春「勉強会」がスタートしました。

全国硫黄島島民の会・幹事でもある写真家・渡邉英昭さん、小説家で、島民三世の滝口悠生さんにも加わっていただき、その時々の取り組むべき課題等を話し合っています。

以前より硫黄島・小笠原に関心を寄せていただいている朝日新聞・川村さん、読売新聞・小泉さん。硫黄島遺骨収集に参加され、特集記事を組んでいただいた北海道新聞・酒井さん。三世の会をご紹介いただきました時事通信・知念さん。年末のお忙しい中ご参加いただきましたNHK・藤村さん、毎日新聞栗原さん。記者の皆さんの、社会に向き合う姿勢はとても参考になりました。

二〇二〇年は、コロナ禍により六月に予定されていた硫黄島墓参が中止になる等、さまざまな活動が制限される中、三世の会では初の試みとなる「オンライン勉強会」を実施しました。

(上) 2019年12月勉強会(写真左より)NHKエデュケーショナル・藤村さん写真家・渡邉さん、小説家・滝口さん、西村会長、羽切副会長、羽切、明治学院大・石原先生

(左) ビデオ会議アプリ・ZOOMを使った「オンライン勉強会」

遺骨収集

永くこの島に眠る、ご遺骨を迎える活動について

今の硫黄島を伝える為には、遺骨収集(硫黄島戦没者遺骨収集帰還派遣)についても載せていきたいと思っています。

硫黄島で戦死した日本兵は軍属の島民を含む約二万一千九百人。そのほぼ半数の遺骨はまだ硫黄島に眠っております。硫黄島の遺骨収集は年四回、二週間づつ行われています。今年度の一回目は七月二九日から八月十二日まで行われ、島西部の漂流木付近の壕を中心に行い、十二柱のご遺骨をお迎えする事が出来ました。

今、この会報を書いている九月下旬も今年度二回目の遺骨収集が行われている最中です。(編註・十九柱をお迎えしたとのことです)

現在、遺骨収集活動に毎回参加し、精力的に活動されている硫黄島旧島民二世・父島在住の楠明博さん(母・千代音(旧姓:高橋))の話の中で、とても印象に残る話があります。

「俺はご遺骨をお迎えする時は明るくお迎えするんだよ!今の時代が皆様のおかげで〝いい世の中ですよ!〟と伝える為にね」と、語りかけるように、ご遺骨をお迎えするのだそうです。

今回も沢山のご遺骨が暖かく迎えられる事を願っています。

【インフォメーション】

1　明治学院大学社会学部教授　石原俊先生による近著。これまで語られることのなかった硫黄列島(北硫黄島、硫黄島、南硫黄島)の近現代史を、島民の経験を軸とする社会史として描き出した一冊です。
'硫黄島のイメージが根底から変わります(Amazonレビューより)'『硫黄島 国策に翻弄された130年』(中央公論新社)

2　小説家で、島民三世の滝口悠生さん(2016年芥川賞受賞作家)が『新潮』にて「全然」を現在連載中。東京、小笠原、硫黄島を舞台に、時空を超えて進行する意欲作です！　「新潮」は毎月7日発売。

1

2

3

4

資料、情報求む！硫黄島に関することでしたら何でも。

ご自宅にございます《硫黄島》に関する文献、写真、映像等どのような情報でも構いません。
現在、『全国硫黄島島民三世の会』では、歴史を風化させないために、貴重な情報を収集し、デジタル・アーカイブ化も含め、次代へつなぐ活動に取り組んでいます。

3 島民二世 小俣耕一様とご家族よりお預かりした資料。

会員募集！『全国硫黄島島民三世の会』

祖父母の世代が「硫黄島旧島民」でいらっしゃる孫の世代＝三世の皆様へ。2018年に発足致しました『全国硫黄島島民三世の会』では会員を募集致しております。共に学び、語り合い、いつの日か一緒に硫黄島を訪れたい。事務局（電話047-458-3615、islandvideo1976@gmail.com）まで。お待ちしてます。

4 三世の会制作、硫黄島キーホルダー。2019年

全国硫黄島島民の会会報　通巻第1号　2020年11月　発行：全国硫黄島島民の会　編集：全国硫黄島島民三世の会　デザイン：アイランドビデオサービス

1

2

3

4

5

6

7

8

9

1、摺鉢山山頂にある「慰霊碑」。
2、平和祈念会館前より監獄岩を望む。
3、鎮魂の丘。奥に摺鉢山。昭和58年（1983年）東京都により建設された。
4、東部落の水口家跡。薪置き場と水場。
5、２月でもハイビスカスの花が咲く。
6、荒々しい岩。
7、平和祈念墓地公園。もともと島民の墓地だった場所にある。
8、硫黄ヶ丘。奥の高台は「船見岩」。戦前は定期船が来るのを見ていた岩だという。
9、貨物廠壕（かもつしょうごう）の跡。島民13名が所属していたと言われている。

ここが私たちの故郷 (ふるさと)

激しい戦闘の跡とともに、確かにこの島に生活があったことを
感じさせる《硫黄島》。
自分が住んでいたわけでもなく、めったに行けない島だけど、
ここが故郷（ふるさと）だとわかるのは、なぜだろう？

「東京都主催　硫黄島旧島民墓参事業」
令和2年（2020年）2月18日火曜日

文と写真◎全国硫黄島島民三世の会副会長　羽切朋子

今回、私と母（二世）にとって４年ぶりの硫黄島上陸となりました。また、入間基地から自衛隊機での墓参への参加はなんと２０年ぶりです。

乗り心地も爆音も何も変わらない、約３時間の飛行で、曇り空の硫黄島に着着。おがさわら丸での墓参とは違い、滞在時間約３時間の慌しい島での時間が始まりました。

自衛隊機の後方扉が開いた瞬間に感じる‘少し生温い風と匂い’は、毎回硫黄島に着く度に、私の身体が覚えている硫黄島スイッチを瞬間で押し、「ただいま！」と言ってしまう感覚があります。
決して、私が生まれ育った場所ではないのに、この感覚はうまく伝えられませんが、約２０年前に初めて上陸した時から変わらない感覚なのです。
ちゃーちゃん（祖母、一世）の生まれ育った場所、叔父さん２人が眠る場所、私のルーツ《硫黄島》。

さて、お昼ご飯も食べ終わり、ここから数台のバスに分かれて島内を回ります。ここで残念なお知らせが！（実は後の良き出来事にもつながるお知らせでもあるのですが）「実は皆様が到着する前、午前中は大雨でした。春ということで雨の日も多く、廻る予定の場所の中には、バスがスタックしてしまう為、行けない場所もあるかもしれません、ご了承下さい」と担当の自衛隊員さんから伝えられました。

今回、廻る予定の場所は、
①２０４設営隊（釜場）→ ②天山 → ③硫黄ケ丘 → ④貨物壕
→ ⑤平和祈念会館 → ⑥島民墓地 → ⑦摺鉢山 → ⑧鎮魂の丘
→ ⑨２０４揚陸作業隊壕　です。

確かに大雨の後？いや、いつも通り？の揺れるバスでまずは２０４設営隊へ。ここでひとつ目の良き出来事が起きました。
‘２０４設営隊’、通称‘釜場’は、我が家跡地横を通って行きます。
「通る時に家の跡地を見るぞ！」と毎回（通る度）思う場所なのですが、なんと、
「釜場はこの先なんですが、ぬかるんでいる為ここで降りて歩いて行きます」と、バスが家の跡地前で止まったのです!!
里帰りは車窓で！のはずが、雨のおかげで家跡地に里帰り出来てしまったのです。これはちゃーちゃんにも報告し、喜んでくれた出来事となりました。

ここで我が家の跡地についてですが、島の東側にあり、あまり戦闘下にならなかった場所らしく、水場、薪置き場、水を貯めるタンクが残っています（写真左列、中段）。戦前の生活が見て取れる貴重な場所だと思います。

その後、②から⑨へと順調に廻って行き、無事献花も供物もする事が出来、とても良い墓参となりました。大雨が続いていれば中断していたと思う墓参、私達旧島民(子孫)がこの地を訪れている間は雨粒ひとつ降らずに過ごせました。ふたつ目の良き出来事だったと思います。

また、今の新型コロナの日本流行少し前だった為、無事に催行出来たことも良き出来事だったと思います。
そして、名残り惜しいですが、摺鉢山（パイプ山）からは硫黄島全土が見渡せる為、船の時も自衛隊機の時も最後の挨拶は摺鉢山からとなぜか決めています。「また来ます」と摺鉢山から挨拶して、あっという間の３時間が過ぎました。

４年ぶりの硫黄島上陸の感想は「島が大きくなったなー」です。監獄岩はもう手の届くところ？！まで近づいていますし、南海岸の沖にあった岩は“うずら石”とともに海岸上に立っていましたし、釜岩付近、西海岸の沈船はほぼ姿が見えていました。

次回、皆さんはそれぞれ何年ぶりの硫黄島上陸になるでしょうか？島の大きさ、本当にびっくりすると思いますよ！

はぎり・ともこ
2018年より、全国硫黄島島民三世の会副会長。1976年生まれ。
祖母・川島フサ子（旧姓・水口　島民一世）の孫。千葉県出身・在住。

晴天の硫黄島にて

硫黄島への飛行機でのアクセス
【東京都主催墓参】

埼玉・入間基地
↓
自衛隊機　3時間
↓
硫　黄　島

硫黄島への船でのアクセス
【小笠原村主催墓参】

東京・竹芝桟橋
おがさわら丸　24 時間
父　　島
定期便はございません　8時間
硫　黄　島

掲載歴

朝日新聞デジタル
「硫黄島をたどって」

北海道新聞電子版
「令和の硫黄島
―残された戦後―」

時事ドットコム
「島の記憶引き継ぐ孫世代
―硫黄島元住民３世の会」

デジタル毎日
「硫黄島の歴史、
どうつないでいく」

さまざまな視点で
《硫黄島》を取りあげて
いただきました。